

## 〔5〕保安施設設置基準

「保安施設設置基準」については、広島高速道路公社制定「土木工事共通仕様書」〔5〕保安施設設置基準に基づくこととし、次の「ランプ、暫定区間（片側1車）、料金所の交通規制図について」も併せて保安施設の設置を行うこと。

## ランプ、暫定区間(片側1車)、料金所の交通規制図について

供用中の広島高速道路で、設備工事を行うために必要な標準的な交通規制図は次のとおりとする。

### 1. ランプの交通規制について

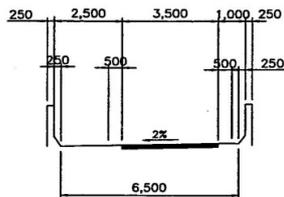
広島高速道路計画設計で定める、標準的なランプの横断構成は次の表のとおり。

#### ①横断構成

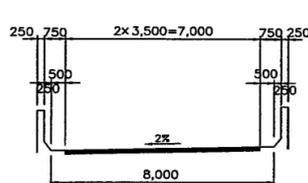
ランプ種別	横断構成要素	車線(m)	路肩(m)		側帯(m)	
			1方向1車線			1方向2車線または2方向2車線の両側
			左側	右側		
A規格		3.50 (3.25)	2.50 (1.50)	1.00 (0.75)	0.75 0.50	
C規格		3.25	1.25 (1.00)	0.75 (0.50)	0.50 0.25	

#### i) A規格ランプ

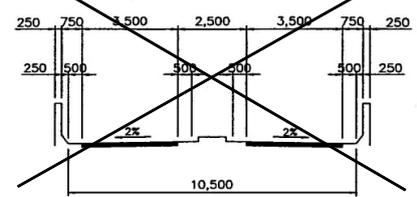
##### ① 1方向1車線



##### ② 1方向2車線

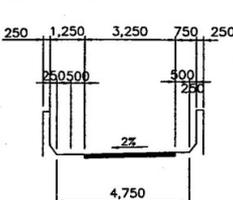


##### ③ 2方向2車線

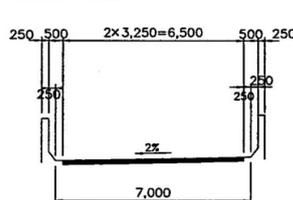


#### ii) C規格ランプ

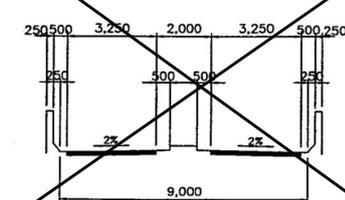
##### ① 1方向1車線



##### ② 1方向2車線



##### ③ 2方向2車線



#### ②規制図の適用について

A及びC規格ランプの交通規制は、次表のとおりとする。

規格	路肩が2.5m以上確保できる場合	路肩が2m未満	
		車道が3m以上確保できる場合	車道が3m以上確保できない場合
A規格ランプ	図1	図2	図3
C規格ランプ	路肩が2.5m以上確保できる場合	路肩が1.25m未満	
		車道が3m以上確保できる場合	車道が3m以上確保できない場合
	—	図2	図3

#### 【参考】広島高速道路のランプ道

- ①広島東IC 1～4号ランプ A規格ランプ
- ②温品JCT A、Bランプ C規格ランプ
- ③仁保JCT 3、4号ランプ A規格ランプ
- 5、6号ランプ C規格ランプ
- ④その他の料金所のランプ C規格ランプ

### 2. 暫定区間の交通規制

暫定区間の交通規制は、次表のとおりとする。

暫定区間	図4
------	----

※片側2車線の上下4車線の本線交通規制は、土木工事共通仕様書による。

### 3. 料金所の交通規制

料金所の交通規制は、次表のとおりとする。

1ブース1レーン	片側交通規制
2ブース2レーン	図5
3ブース3レーン	図6

#### 暫定区間横断構成

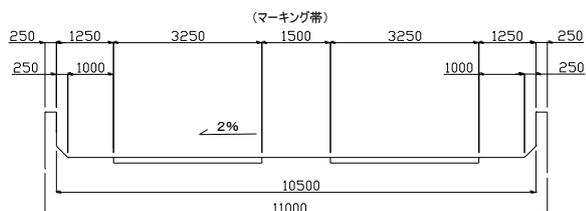


図1. A規格ランプで路肩が2.5m以上確保できる場合の規制図

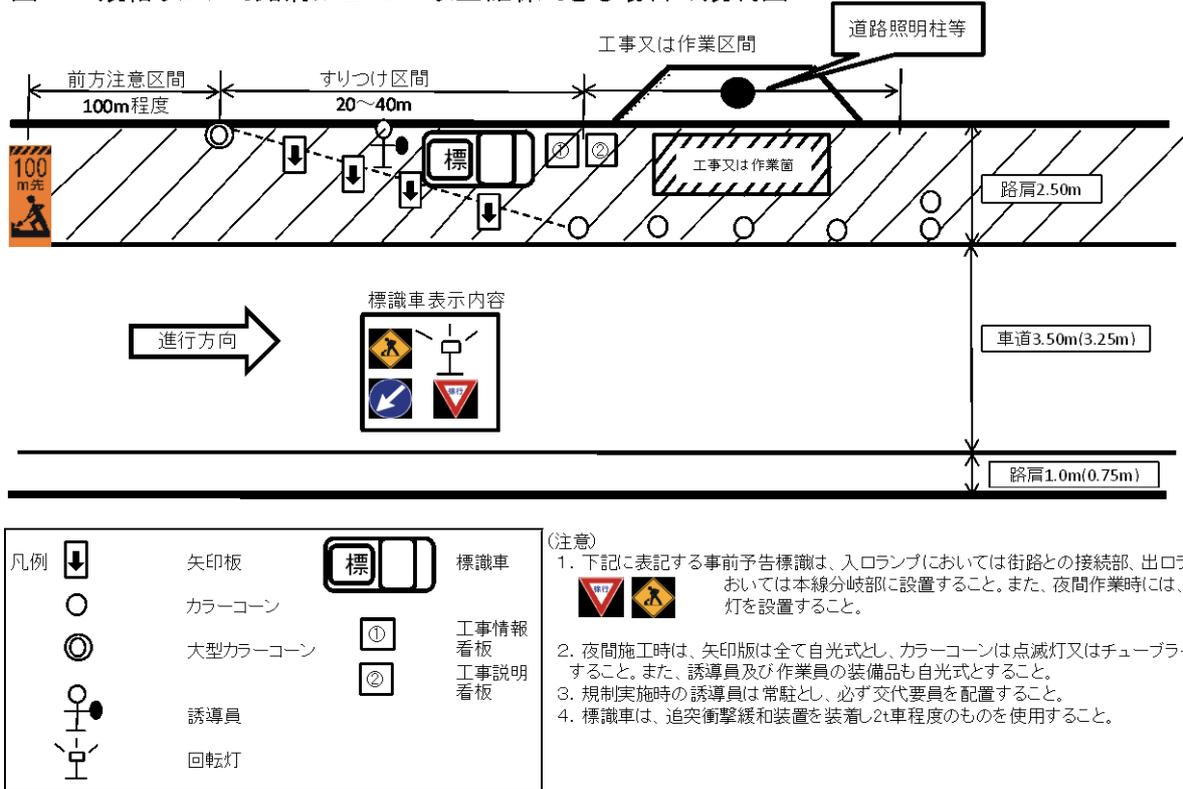


図2. A、C規格ランプで車道部3.0m以上確保できる場合の規制図

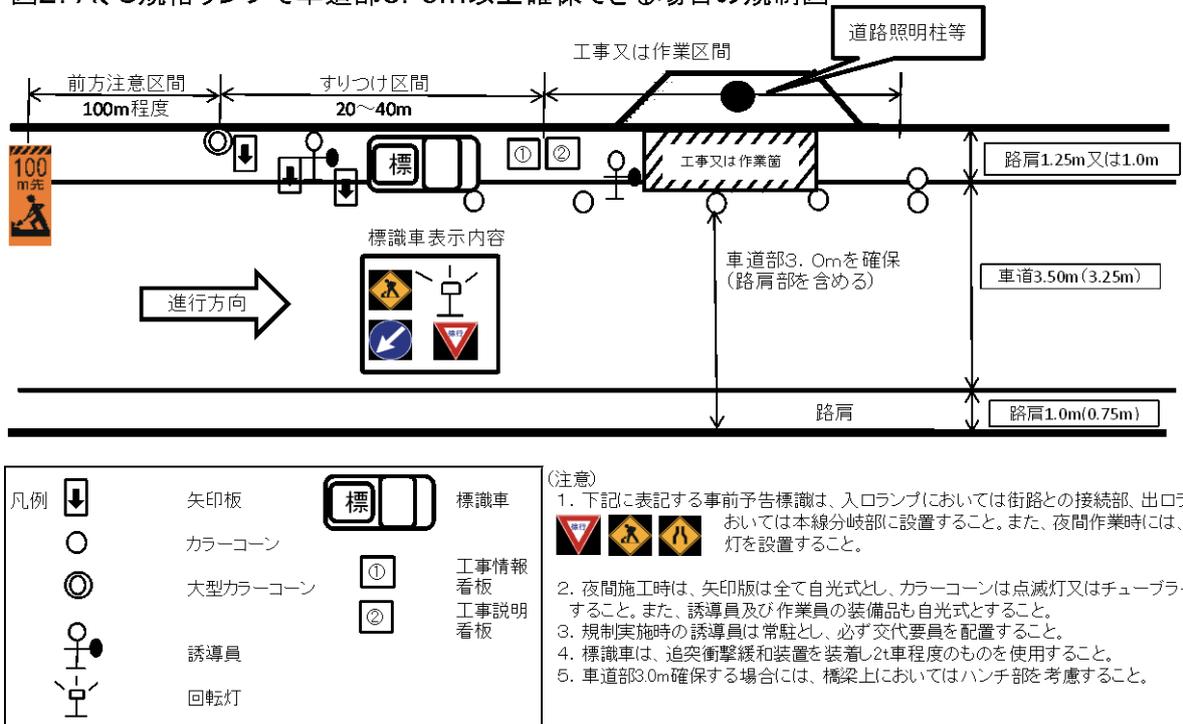
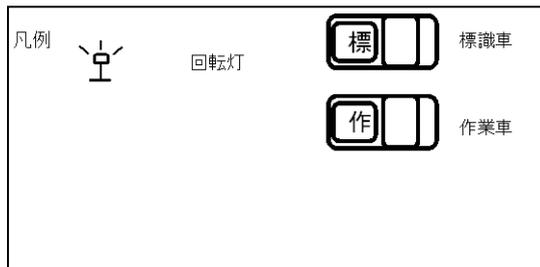
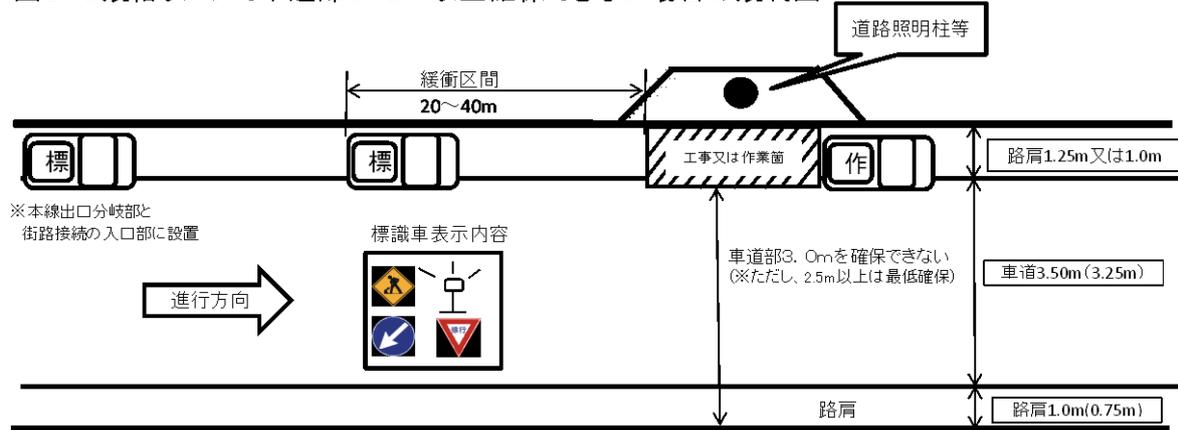
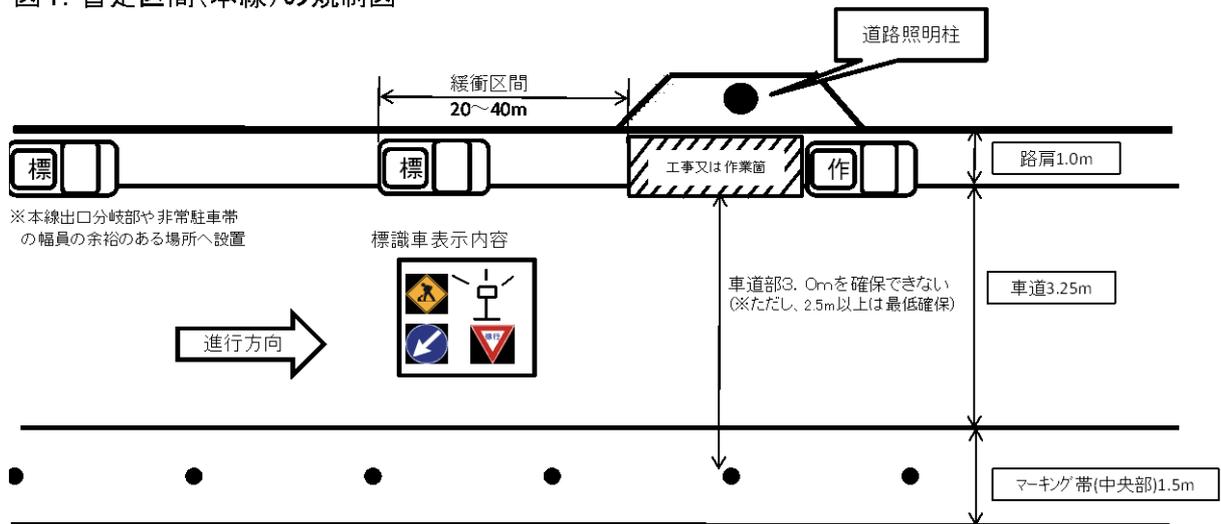


図3. C規格ランプで車道部3.0m以上確保できない場合の規制図



- (注意)
1. 標識車は、入ランプにおいては街路との接続部、出ランプにおいては本線分岐部に設置し、工事又は作業区間の後方にも設置すること。(施工箇所1箇所に付、2台設置する)
  2. 夜間施工時は、矢印版は全て自光式とし、誘導員及び作業員の装備品も自光式とする。
  3. 標識車は、追突衝撃緩和装置を装着し2t車程度のものを使用すること。
  4. 車道部3.0m確保する場合には、橋梁上においてはハンチ部を考慮すること。
  5. この規制図は、「おおむね5分程度の作業である」、「作業箇所が短区間で連続しない」、「深夜作業(22:00~翌5:00)」の3条件の全てが該当する場合に適用するものとする。
  6. 原則2.5mが確保できない場合は通行止め規制とする。
  7. 車道部3.0mが確保できる場合は、図2の規制図を適用するものとする。ただし、本線部の規制のため、図2の「注意1」の標識を前方注意区間100m手前に設置すること。

図4. 暫定区間(本線)の規制図



- (注意)
1. 標識車は、本線出ランプや非常駐車帯などの幅員の余裕のある場所に設置し、また、工事又は作業区間の後方に設置すること。(施工箇所1箇所に付、2台設置する)
  2. 夜間施工時は、矢印版は全て自光式とし、誘導員及び作業員の装備品も自光式とする。
  3. 標識車は、追突衝撃緩和装置を装着し2t車程度のものを使用すること。
  4. 車道部3.0m確保する場合には、橋梁上においてはハンチ部を考慮すること。
  5. この規制図は、「おおむね5分程度の作業である」、「作業箇所が短区間で連続しない」、「深夜作業(22:00~翌5:00)」の3条件の全てが該当する場合に適用するものとする。
  6. 原則2.5mが確保できない場合は通行止め規制とする。
  7. 車道部3.0mが確保できる場合は、図2の規制図を適用するものとする。ただし、本線部の規制のため、図2の「注意1」の標識を前方注意区間100m手前に設置すること。

図5. 料金所付近規制図  
(2レーン、2ブースの場合)

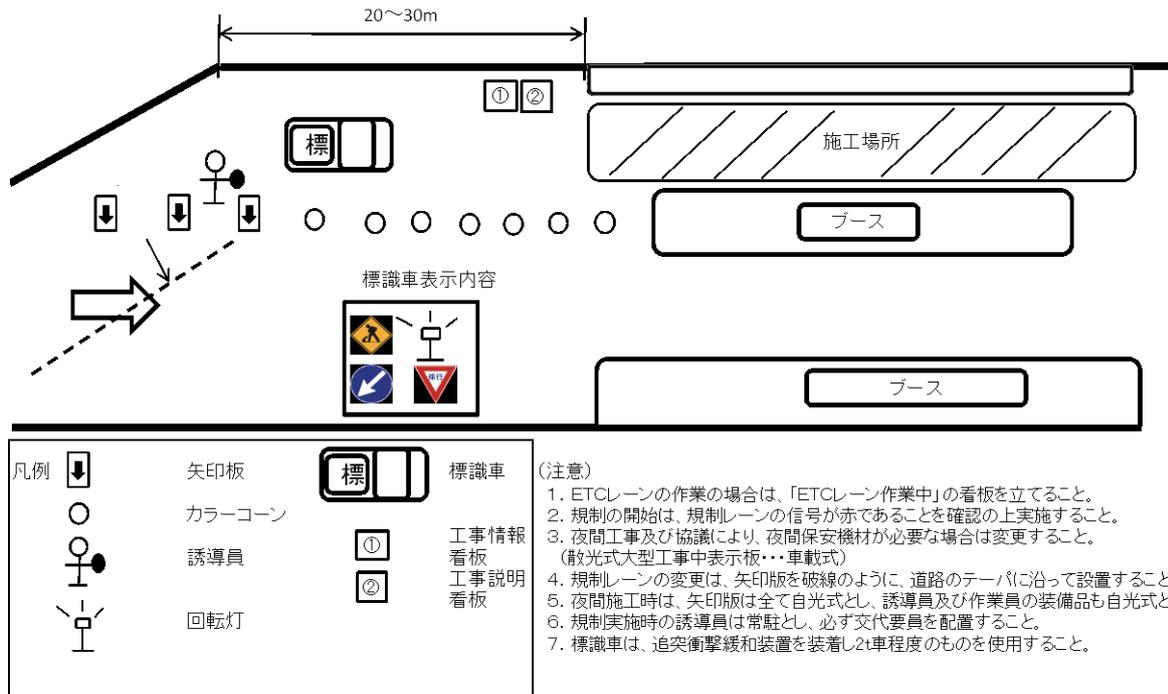


図6. 料金所付近規制図  
(3レーン、3ブース以上の場合)

